

## 第3回「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方検討会」

独居の認知機能低下高齢者の権利利益を保護する  
ことができる地域包括ケアシステムの構築に向けて

東京都健康長寿医療センター・認知症未来社会創造センター  
社会福祉法人 認知症介護研究・研修東京センター

栗田 主一

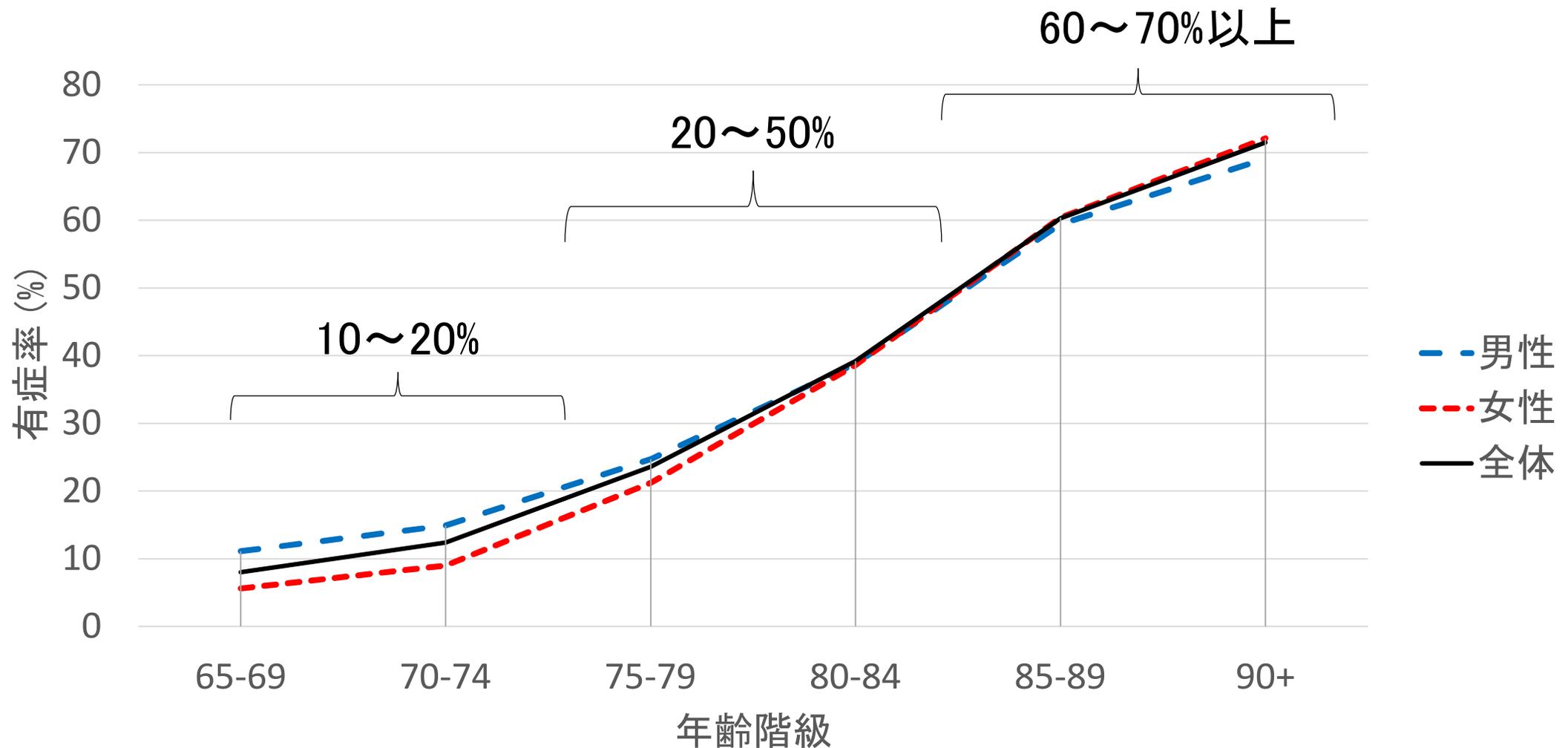
## 本日の話の要約

1. 21世紀前半に、認知機能低下をもって生きる高齢者(特に独居の認知機能低下高齢者)が急増する。
2. 地域に暮らす認知機能低下高齢者は、そうでない高齢者よりも、社会的に孤立しやすく、身体的・精神的健康度が低下しやすく、経済的にも困窮しやすい。
3. 地域に暮らす認知機能低下高齢者は、そうでない高齢者より低栄養の傾向があり、独居の場合はさらにその傾向が強くなる。
4. 地域に暮らす認知症高齢者は、そうでない高齢者よりも在宅継続率が低く、独居の場合はさらに低くなる。
5. 独居の認知症高齢者は認知症疾患が診断されていない場合が多い。
6. 独居の認知症高齢者は行方不明になるとその後の死亡率が高くなる。
7. 居宅介護支援員が勤務する事業所の多くが、独居認知症高齢者の消費者被害の事例を経験している。
8. その他、認知機能低下高齢者(特に独居の認知機能低下高齢者)には、サービス利用にあたって本人不在で意思決定がなされたり、必要なサービスへのアクセスが阻まれたり、自然災害やパンデミック下において平時の社会的孤立が増幅され生存の危機に直面しやすくなるなど、権利侵害に関わるさまざまな課題がある。

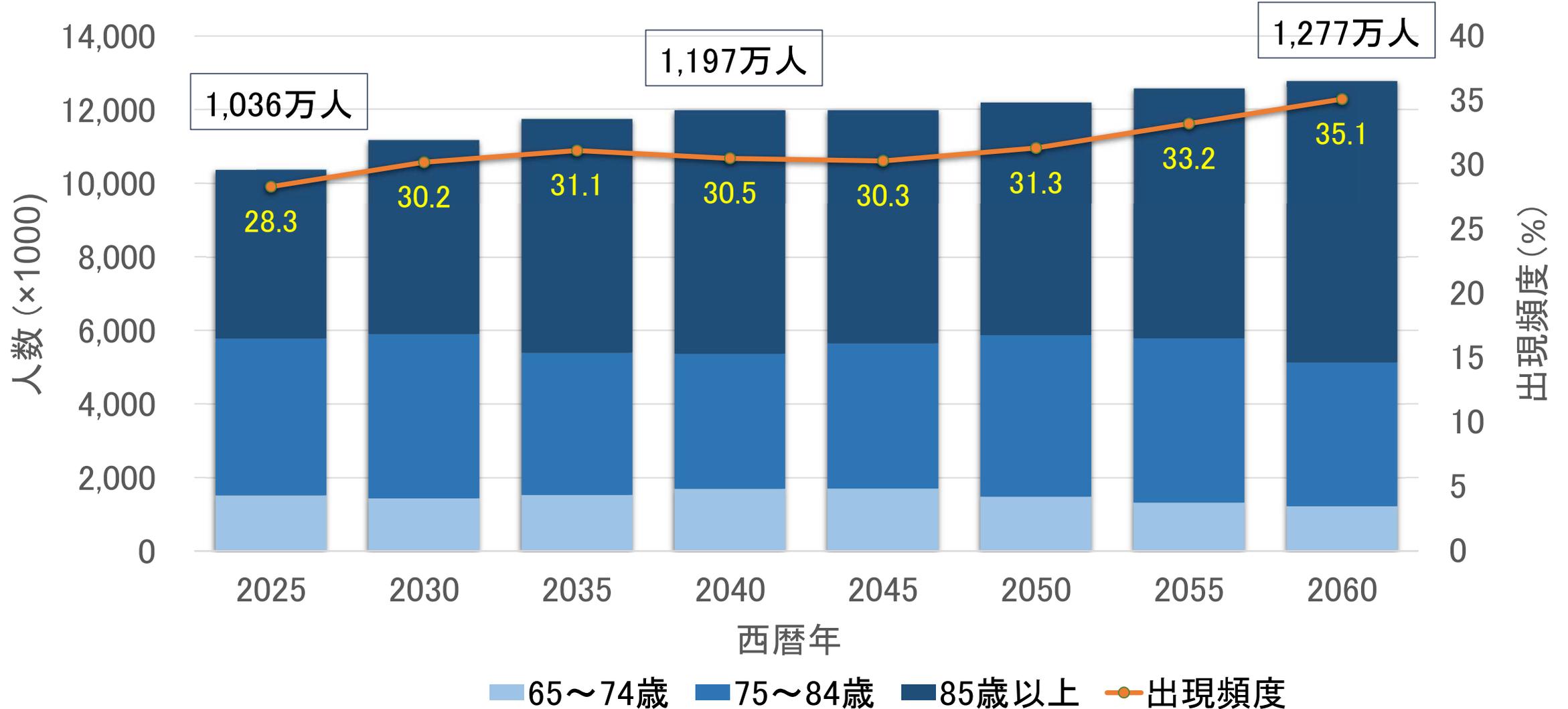


認知機能低下高齢者(特に独居の認知機能低下高齢者)の権利利益を保護することができるサービス提供システムを包含した地域包括ケアシステムの構築が求められている。

# 65歳以上高齢者における認知機能低下（MCIまたは認知症）の 性・年齢階級別有症率

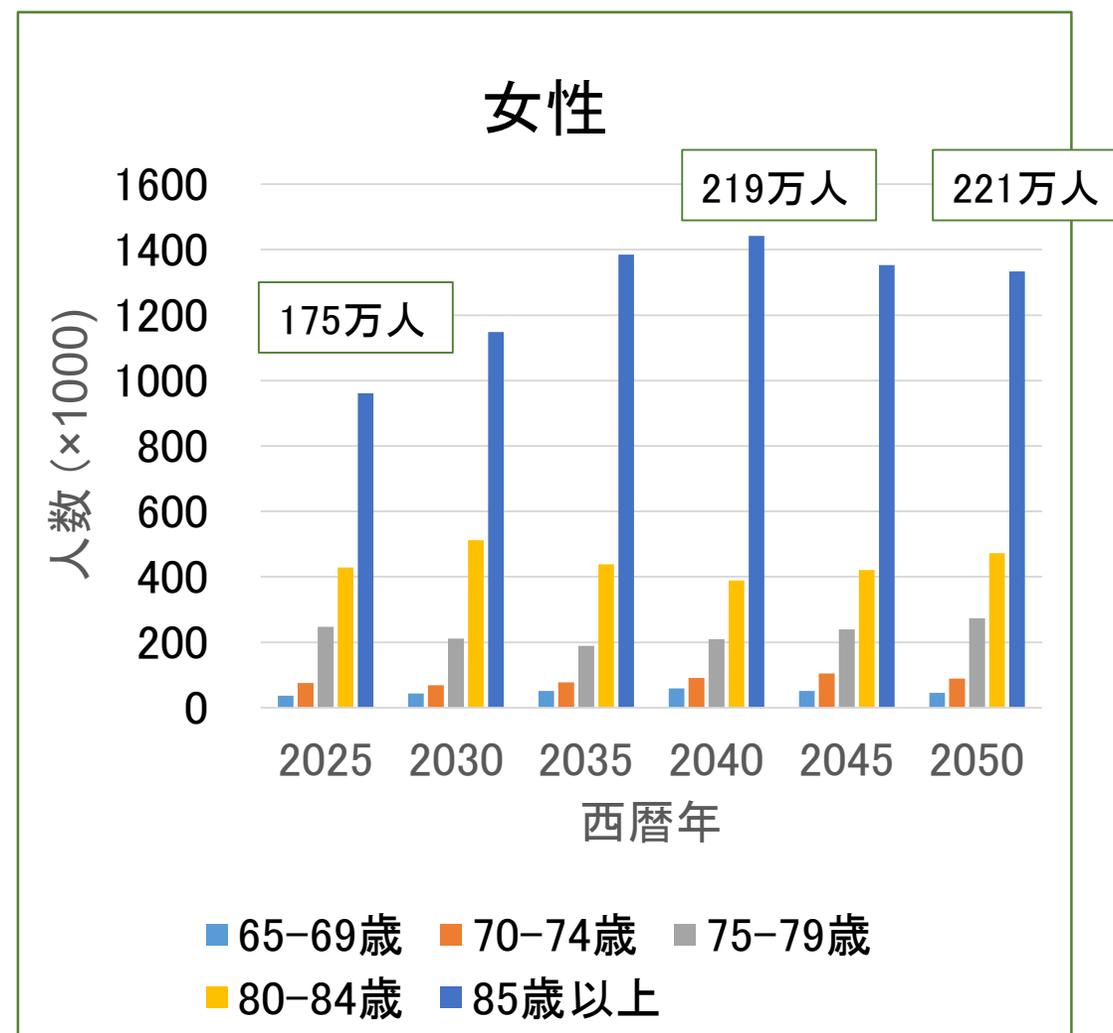
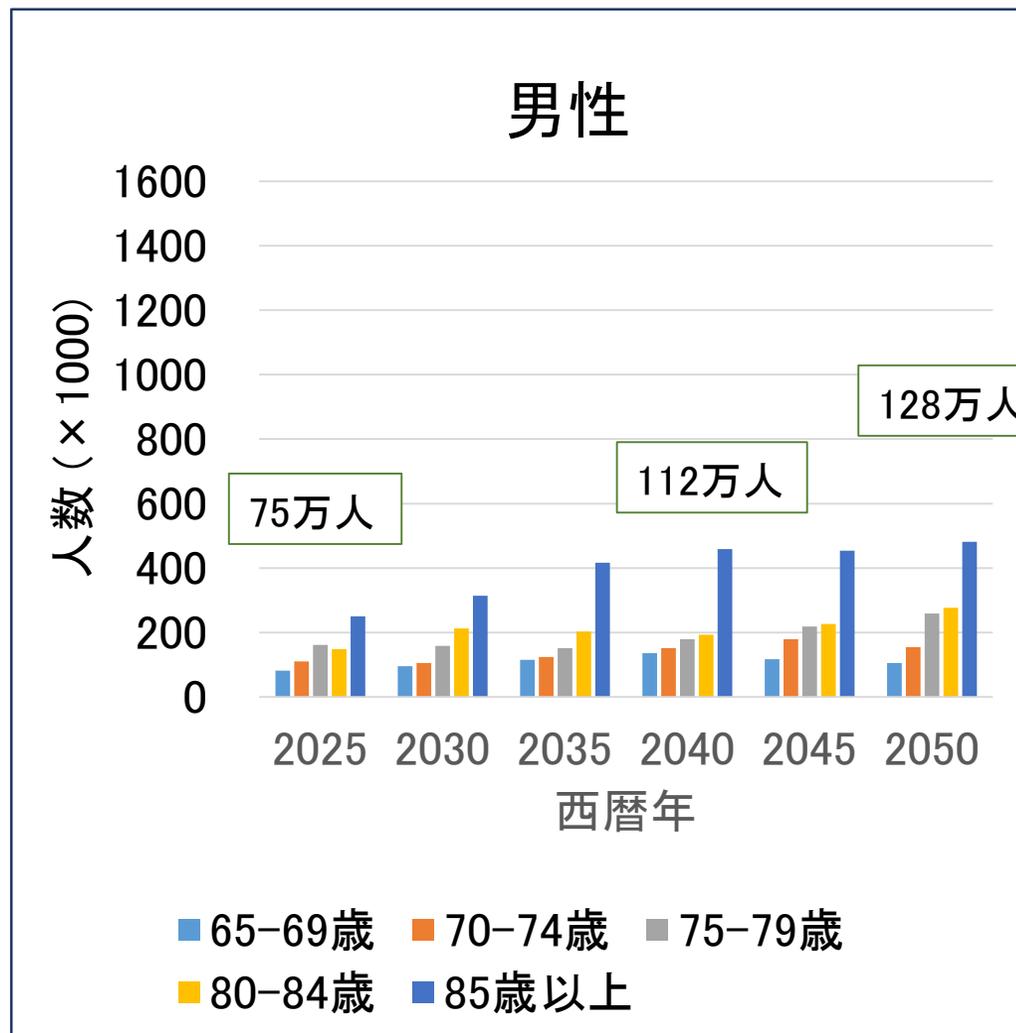


# 年齢階級別に見た認知機能低下のある高齢者の人数と出現頻度の将来推計 (認知機能低下=MCIまたは認知症)



性・年齢階級別「MCIまたは認知症」有病率（二宮ら）と国立社会保障・人口問題研究所の性・年齢階級別将来推計人口（令和5年推計）を掛け合わせて算出

# 性・年齢階級別に見た認知機能低下のある単身世帯高齢者数の将来推計 (認知機能低下=MCIまたは認知症)



## 認知機能低下高齢者は身体的・精神的健康度が低下しやすく、社会的に孤立しやすい

従属変数	有意確率	Exp(B)	Exp(B) の 95% 信頼区間	
			下限	上限
主観的聴力不良(大きな声であれば聞こえる, 聞こえない)	0.02	1.51	1.07	2.12
主観的視力不良(顔がわかる程度, 見えない)	0.00	2.26	1.50	3.40
歩行機能が低下し, 自由に外出できない	0.00	2.54	1.52	4.24
椅子から何もつかまらず立ち上がりができない	0.01	1.52	1.10	2.08
15分間続けて歩く	0.02	1.81	1.25	2.62
ブクブクうがいができない	0.00	1.66	1.18	2.35
かかりつけ歯科医がいない	0.02	1.44	1.06	1.95
過去1年間歯科受診していない	0.02	1.53	1.17	2.01
糖尿病の既往	0.00	1.66	1.19	2.31
血液免疫疾患の既往	0.04	1.83	1.02	3.27
外出が月1回未満	0.00	2.98	1.99	4.47
友人・知人と会話するのは月1回未満	0.00	1.62	1.23	2.12
友人・知人と電話で話すのは月1回未満	0.00	1.88	1.43	2.47
家族と会うのは月1回未満	0.15	1.22	0.93	1.58
家族と電話で話すのは月1回未満	0.00	1.77	1.34	2.34
社会活動にまったく参加していない	0.00	2.70	1.92	3.80
年収100万円未満	0.00	2.21	1.52	3.21
抑うつ症状(GDS短縮版5点以上)	0.00	1.74	1.34	2.26
うつ病の既往	0.00	2.36	1.41	3.97

70歳以上地域在住高齢者2,020名. 独立変数: 認知機能低下(MMSE24点未満), 性, 年齢, 教育年数, 世帯類型(独居)を共変量に投入にした二項ロジスティック回帰分析  
 認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業(平成28年~平成29年度)報告書(東京都福祉保健局/東京都健康長寿医療センター研究所)(研究代表者: 栗田主一)  
[https://www.fukushi1.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou\\_navi/torikumi/jigyou/caremodel/index.html](https://www.fukushi1.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou_navi/torikumi/jigyou/caremodel/index.html)

地域に暮らす認知機能低下高齢者は、そうでない高齢者より低栄養の傾向があり、独居の場合はさらにその傾向が強くなる。

Exposure:		Univariate model			Multivariate model		
		Crude OR	95% CI	p-value	Adjusted OR	95% CI	p-value
Living alone (-)	Cognitive impairment (-)	Ref.			Ref.		
Living alone (+)	Cognitive impairment (-)	1.32	0.99-1.76	0.05	1.33	0.96-1.84	0.08
Living alone (-)	Cognitive impairment (+)	1.78	1.02-3.12	0.04	1.60	0.89-2.89	0.11
<b>Living alone (+)</b>	<b>Cognitive impairment (+)</b>	<b>3.00</b>	<b>1.32-6.83</b>	<b>0.01</b>	<b>3.25</b>	<b>1.38-7.68</b>	<b>0.01</b>

Outcome: low serum albumin < 4.0 g/dl

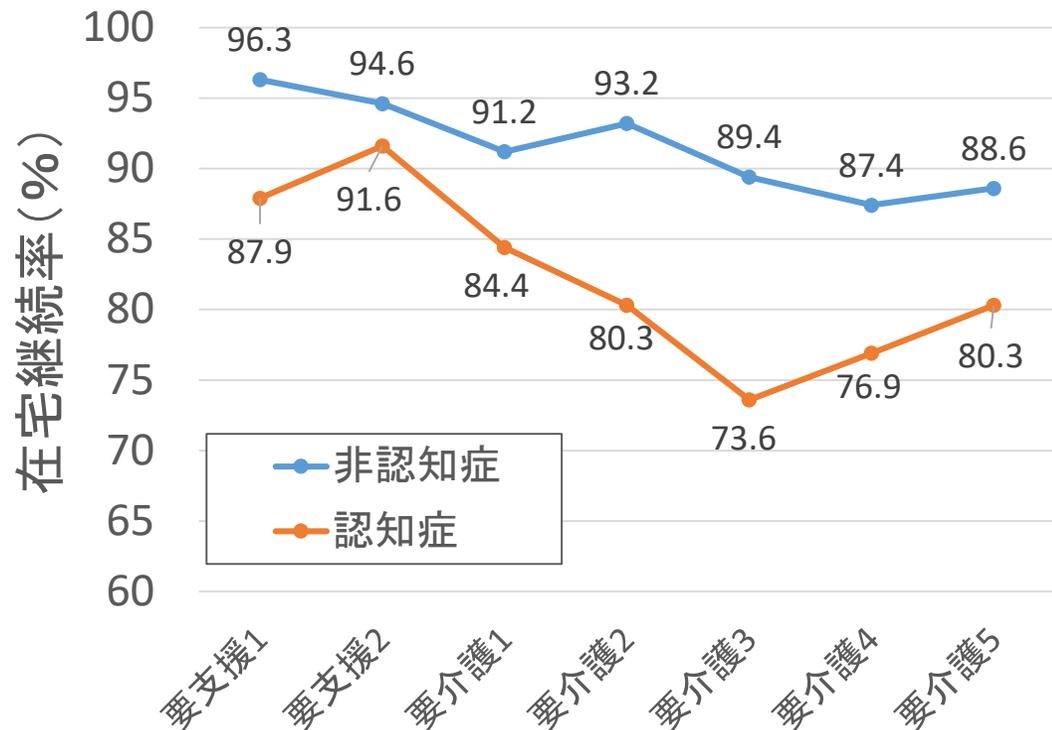
\*Multiple logistic regression analysis adjusted for age, sex, years of schooling, annual income, smoking status, alcohol consumption, physical activity level, chewing ability, swallowing ability, appetite, social isolation, instrumental activities of daily living, depressive symptoms, number of comorbidities, and hospitalizations within the prior 12 months

Iwasaki, et al. Nutritional status and body composition in cognitively impaired older persons living alone: The Takashimadaira study. PLoS One. 2021 Nov 23;16(11):e0260412. doi:10.1371/journal.pone.0260412. PMID: 34813604; PMCID: PMC8610283.

# 地域に暮らす認知症高齢者は、そうでない高齢者よりも在宅継続率が低く、 独居の場合はさらに低くなる。

## 要介護度別に見た認知症高齢者と非認知症高齢者の 2年後の在宅継続率

(A市で介護サービスを受給している地域在住高齢者N=12,067)

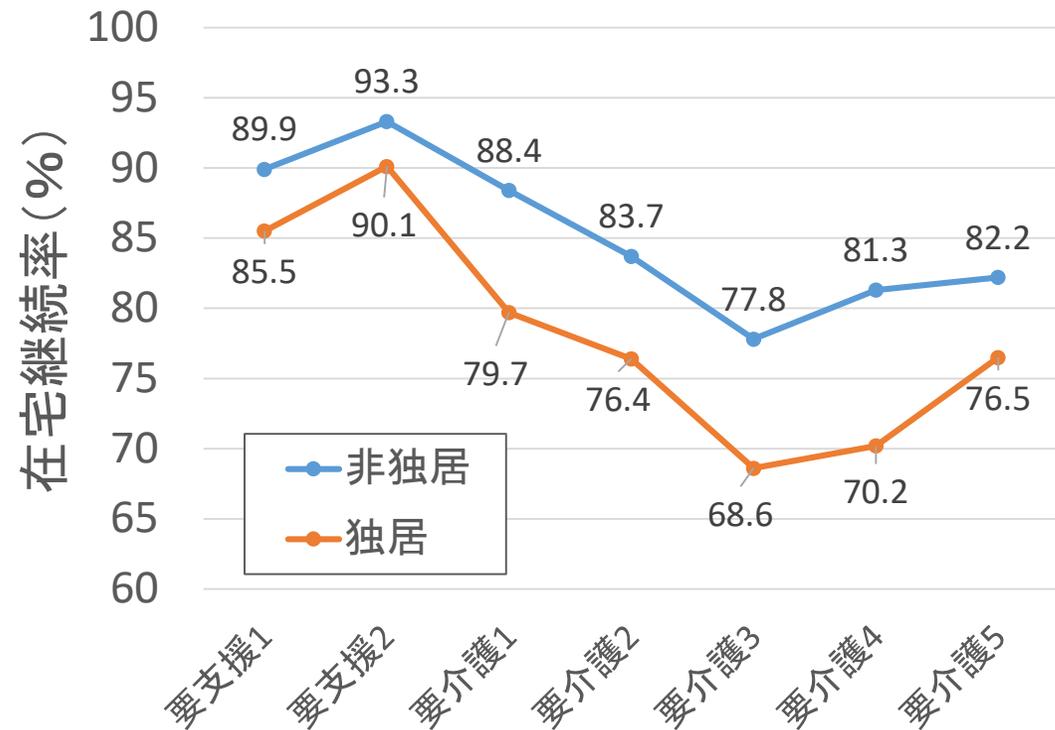


観察開始時点の要介護度(2017年9月)

川越雅弘: 在宅認知症高齢者と非認知症高齢者の在宅継続率及び移行先の差異, 令和2年度厚生労働科学研究「独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究」(研究代表者: 栗田圭一)

## 要介護度別に見た独居認知症高齢者と非独居認知症高齢者の2年後の在宅継続率

(A市で認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の地域在住高齢者N=15,502)

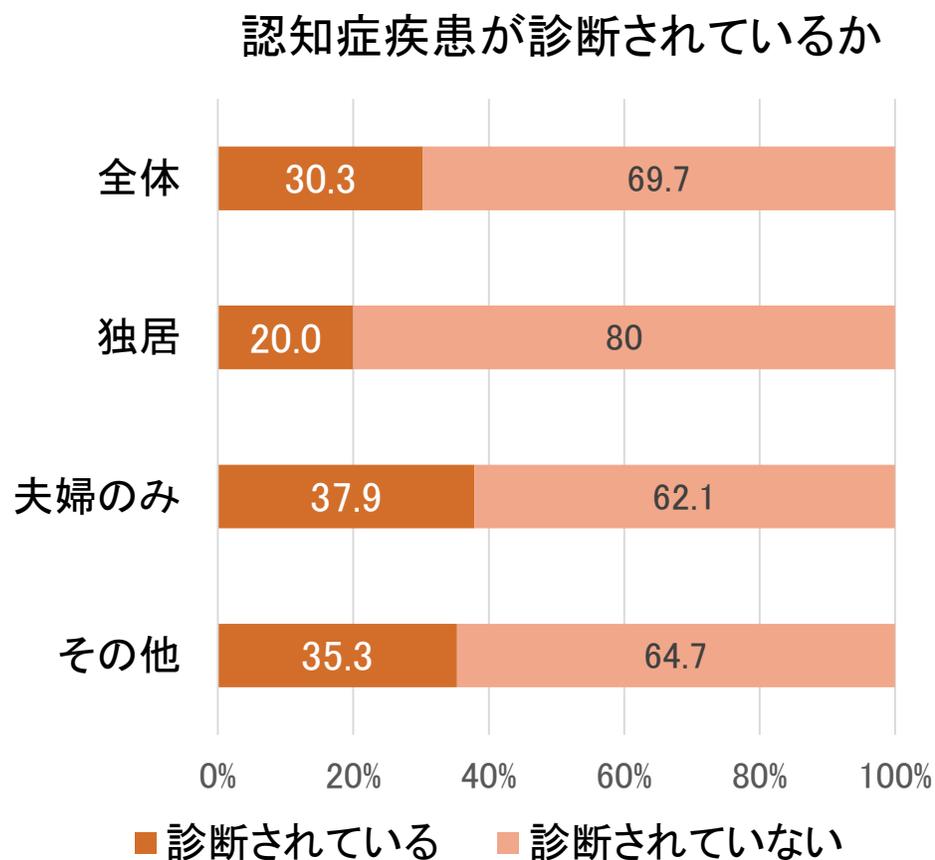


観察開始時の要介護度(2017年9月)

川越雅弘: 独居/非独居認知症高齢者の在宅継続率及び移行先の差異, 令和2年度厚生労働科学研究「独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる環境づくりのための研究」(研究代表者: 栗田圭一)

# 地域に暮らす認知症高齢者で認知症疾患が診断されているのは約3割であり、独居である場合にはさらに認知症疾患の診断率が低下する。

(認知症の状態にある高齢者：N=76, 世帯類型欠損値：N=2)



## 訪問調査員(看護師)のメモ

- 80歳代女性, 独居, 昨年秋に退院して家に帰ってきたがどうやって帰ってきたかわからない, いろいろなことがわからなくなってボーっとしている.
- 70歳代女性, 独居, 抗認知症薬を服用しているが薬手帳のシールはバラバラ. 転倒して顔面外傷, 通行人に助けられて帰宅したことがある. 介護保険を申請しているが中断している.
- 90歳代女性, 独居, 抗認知症薬を服用しているが薬手帳のシールは7月以降貼られていない. カーテンフックが3か所はずれているが, そこから頻繁に泥棒に入られるという.
- 80歳代女性, 娘と2人暮らしであるが, MMSEは10点. しかし, 認知症に関する情報はまったく知らない. 本人は「これからどうなるのかしら」と不安がっている.
- 80歳代女性, 娘と2人暮らしであるが, 通院頻度と残薬が合わない, 服薬内容と病名も合わない. 介護保険証は期限切れ.
- 70歳代男性, 独居. 1~2年前からガスのつけっぱなしで鍋焦がしがあがる. 本人は「火事を出さないように気をつけている」というが訪問当日も薬缶をかけっぱなしで調査員が気づいた.
- 80歳代男性, 独居. 物忘れがひどくなったので娘が近隣に転居して世話をするようになったが, 本人は受診したがない. 介護保険も未申請.
- 90歳代男性, 独居. 妻とは死別. 部屋全体がアンモニア臭, 清掃はされておらず汚れがひどい. 食事は息子が運んでくる. サービスも拒否, 受診も拒否, しかし話し相手は欲しいよう.
- 70歳代男性, 独居. 物忘れの自覚あり, 体力の衰えも気にしており外出もほとんどしていない. 経済的な不安も大きい.
- 70歳代男性, 夫婦同居. 異食があり目が離せない. 介護負担大きい. 経済的理由から医療機関を受診しておらず未診断.

## 独居の認知症高齢者は行方不明になるとその後の死亡率が高い

独立変数	オッズ比	95%信頼区間	P値
年齢 (65歳未満=1~95歳以上=8)	0.94	0.67-1.31	0.718
性 (男性=1, 女性=2)	2.23	0.89-5.60	0.088
認知症重症度 (FAST1=1~FAST7=7)	0.98	0.74-1.30	0.885
<b>世帯類型</b> (同居者あり/病院または施設入所=1, 独居=2)	<b>13.45</b>	<b>1.12-161.60</b>	<b>0.040</b>
行方不明になってから届け出るまでの日数 (初日=1, 2日目以上=2)	0.59	0.13-2.74	0.502
警察以外の捜索活動が開始されるまでの日数 (初日=1, 2日目以上=2)	3.58	0.68-18.92	0.133
発見のされ方 (捜索活動または家族による発見/自分で帰宅=1, 他者による偶然の発見=2)	1.05	0.40-2.78	0.925
発見場所 (居住地域外=1, 居住地域内=2)	6.36	2.26-17.88	<0.001
発見されるまでの日数 (初日=1~5日目以降=4)	6.14	3.14-12.00	<0.001

Nagelkerke R<sup>2</sup> = 0.604. Hosmer-Lemeshow test;  $\chi^2 = 8.049$ ns (d.f. = 8).

Binary logistic regression analysis with demographics, search status and status at the time of location as independent variables, and vital status (alive = 0, dead = 1) as the dependent variable.

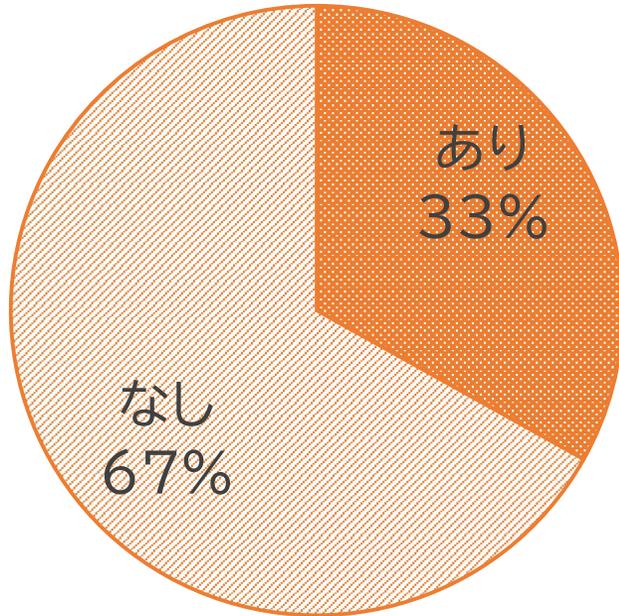
Kikuchi K, Ijuin M, Awata S, Suzuki T: Exploratory research on outcomes for individuals missing through dementia wandering in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2019; 19: 902-906. DOI: 10.1111/ggi.13738

# 過去1年間の独居認知症高齢者に対する強引な訪問販売やリフォーム詐欺の経験

(東京都内の居宅介護支援専門員が勤務する事業所: N=3,711; 回答数=1,294, 回答率=35%)

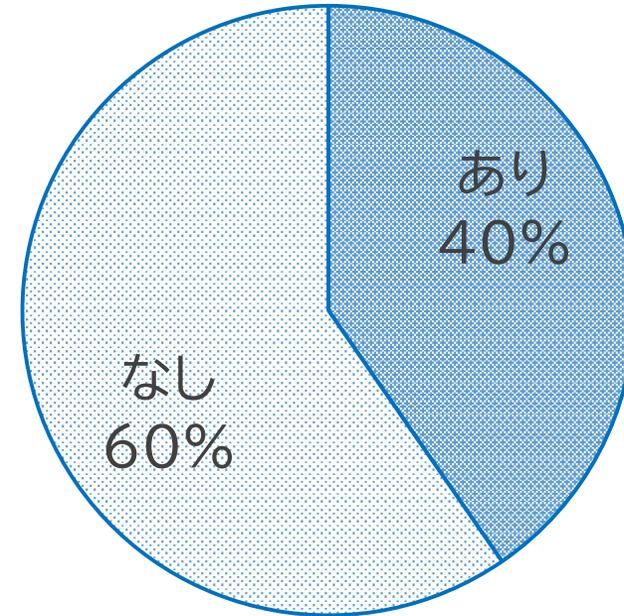
## 実際に被害があった事例の経験の有無

(有効回答数=1,247)



## 被害を回避できた事例の経験の有無

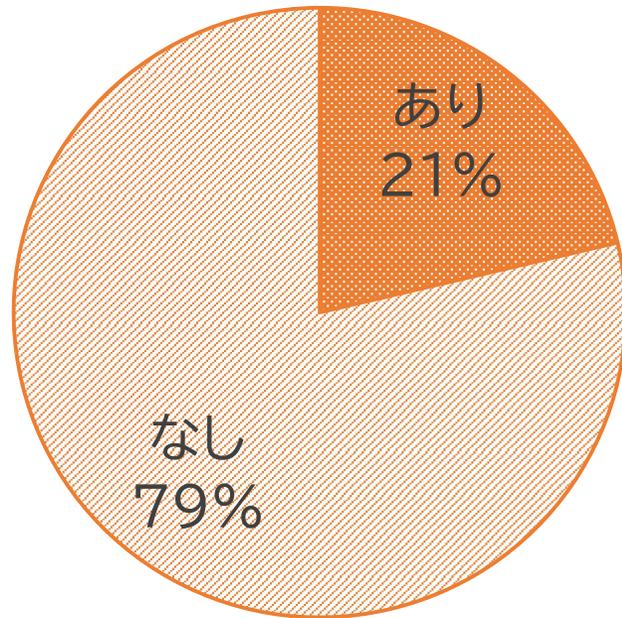
(有効回答数=1,223)



# 過去1年間の独居認知症高齢者に対する特殊詐欺の経験

(東京都内の居宅介護支援専門員が勤務する事業所: N=3,711; 回答数=1,294, 回答率=35%)

実際に被害があった事例の経験の有無  
(有効回答数=1,248)



被害を回避できた事例の経験の有無  
(有効回答数=1,202)

